

平成30年度 全国学力・学習状況調査の調査結果について

平成30年10月29日
足立区教育委員会
学力定着推進課

文部科学省が平成30年4月17日(火)に実施した「平成30年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について下記のとおりお知らせします。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。

学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

2 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒
足立区実施校数 小学校69校 中学校35校 全校実施

足立区調査人数 (単位:人)

科目 対象学年	国語		算数・数学		理科	児童生徒 質問紙調査
	A	B	A	B		
小学6年生	5,077	5,076	5,076	5,083	5,081	5,082
中学3年生	4,300	4,298	4,298	4,293	4,288	4,283

3 調査内容

教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

【問題A】 主として「知識」に関する問題

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
などを中心とした問題

【問題B】 主として「活用」に関する問題

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力
などに関わる問題

理科は問題Aと問題Bを一体的に調査

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

【児童生徒に対する調査】

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【学校に対する調査】

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な3教育条件の整備の状況等に関する調査

4 「教科に関する調査」の概要

小学校 各教科の平均正答率（％）

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
足立区	70.7	57.7	66.4	52.9	60.1
東京都（公立）	74	57	67	55	62
全国（公立）	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

中学校 各教科の平均正答率（％）

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
足立区	74.6	60.1	63.7	44.2	62.1
東京都（公立）	77	63	67	49	65
全国（公立）	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

平成29年度以後、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数で公表されることとなりました。

足立区においては、より緻密に全国平均値と比較するため、上記表では足立区の受検児童・生徒の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位（端数は四捨五入）まで計算して公表します。

なお、東京都（公立）の各教科の平均正答率は、小数点以下が公表されていないため、整数のまま参考として掲載しています。

<用語の解説>

平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率 学習指導要領の領域、評価の観点、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
東京都（公立）	東京都の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
東京都平均値	東京都（公立）における平均正答率
全国回答割合	全国（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合
東京都回答割合	東京都（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合

5 各学年・教科の設問別調査結果及び課題分析と改善の方向性

この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

【小学校6年生】

[国語A：主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		12	70.7	74	70.7
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	92.1	92.6	90.8
	書くこと	1	75.4	77.9	73.8
	読むこと	2	75.8	76.5	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	66.2	69.9	67.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	話す・聞く能力	1	92.1	92.6	90.8
	書く能力	1	75.4	77.9	73.8
	読む能力	2	75.8	76.5	74.0
	言語についての知識・理解・技能	8	66.2	69.9	67.0

[国語B：主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		8	57.7	57	54.7
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	67.4	66.8	64.6
	書くこと	5	49.6	47.1	45.6
	読むこと	2	52.1	52.1	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	-	-	-
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	36.4	33.6	33.2
	話す・聞く能力	3	67.4	66.8	64.6
	書く能力	5	49.6	47.1	45.6
	読む能力	2	52.1	52.1	50.8
	言語についての知識・理解・技能	0	-	-	-

[国語A]及び[国語B]の課題分析と改善の方向性

国語Aの区全体の平均正答率は全国平均値と同値でした。領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均値を上回りましたが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は0.8ポイント下回りました。「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」ことに関する設問の平均正答率は32.0%であり、課題が見られました。主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「どのように」、「なぜ」などという文の構成について、理解できるように指導する必要があります。

国語Bでは、区全体の平均正答率が全国平均値を3.0ポイント上回りました。また、領域別においても全国平均値を全領域で上回り、都平均値も「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域で上回りました。「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」の設問の平均正答率は17.3%であり、課題が見られました。日ごろから、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて内容を簡単に書いたり詳しく書いたりする学習の機会を多く設定する必要があります。

【小学校6年生】

[算数A：主として知識]

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	66.4	67	63.5
学習指導要領 の領域	数と計算	5	67.4	67.2	62.3
	量と測定	4	72.3	74.0	72.7
	図形	3	60.4	61.7	56.9
	数量関係	5	64.4	65.3	60.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	数学的な考え方	0	-	-	-
	数量や図形についての技能	5	67.4	67.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	9	65.9	67.2	63.8

[算数B：主として活用]

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		10	52.9	55	51.5
学習指導要領 の領域	数と計算	6	59.0	61.6	58.4
	量と測定	4	53.7	56.7	52.4
	図形	2	62.7	64.1	59.9
	数量関係	5	47.0	49.0	45.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	数学的な考え方	9	50.2	52.8	49.2
	数量や図形についての技能	0	-	-	-
	数量や図形についての知識・理解	1	78.2	76.8	71.7

[算数A]及び[算数B]の課題分析と改善の方向性

算数Aでは、区全体の平均正答率が全国平均値を2.9ポイント上回りました。学習指導要領の領域・評価の観点における正答率では、「量と測定」を除く全ての項目で全国平均値を上回っています。全国平均値を下回った「量と測定」の領域では、「異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している」ことに関する設問の平均正答率が全国平均値を4.0ポイント下回りました。各学校が授業改善に取り組んできた成果が着実に表れている一方で、さらなる向上を目指すための課題も明らかになっています。

算数Bでは、区全体の平均正答率が全国平均値を1.4ポイント上回りました。学習指導要領の領域・評価の観点における正答率では、全ての項目で全国平均値を上回っています。しかしながら、無答率はすべての問題で全国平均値を上回っています。授業においては数学的活動を通して、すべての児童が目的意識をもって主体的に算数に取り組む工夫、改善が必要です。

【小学校6年生】

[理科]

分類・区分別集計結果

分類	区分		対象設 問数 (問)			
				足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体			16	60.1	62	60.3
枠組み	主として「知識」に関する問題		3	74.0	76.0	78.0
	主として「活用」に関する問題		13	57.0	59.0	56.2
学習指導要領 の区分等	A区分	物質	4	58.3	62.0	59.8
		エネルギー	4	54.3	55.2	53.1
	B区分	生命	4	73.8	74.3	73.6
		地球	6	49.7	51.3	49.5
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		1	82.8	83.2	82.1
	科学的な思考・表現		12	54.7	56.5	54.1
	観察・実験の技能		1	67.3	72.6	71.1
	自然事象についての知識・理解		2	77.9	78.5	81.5

[理科]の課題分析と改善の方向性

理科は、区全体の平均正答率が全国平均値を0.2ポイント下回りました。

「学習指導要領の区分等」及び「評価の観点」の8区分のうち5区分で足立区の平均正答率が全国平均値を上回っており、すべての区分で全国平均値を下回った前回調査(平成27年度)より、改善が見られました。しかし、「観察・実験の技能」に関する設問については、全国平均値から大きく下回っています。実験で使う器具の正しい使い方の理解に課題があります。この理解力の向上のためには、問題解決による授業実践を充実していくことが不可欠です。また、記述式の問題については、無回答率が全国平均の2倍程度となっており、授業において、まとめ・振り返りをしっかり行い、学んだことを記述させることが重要です。

そのために、「足立スタンダード」に基づき、問題解決学習を進めることで、主体的な学習の充実を図るとともに、観察や実験を通して、実感を伴った理解の確実な定着を図る必要があります。

さらに、ノート指導の充実や実験結果から考察を考える活動を充実させることで、記述式の問題についても自分の考えを解答することができるようにしていく必要があります。

【中学校3年生】

[国語A：主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		32	74.6	77	76.1
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	75.7	77.0	75.2
	書くこと	4	72.0	75.3	73.9
	読むこと	4	75.5	78.4	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	74.8	76.8	76.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	話す・聞く能力	3	75.7	77.0	75.2
	書く能力	4	72.0	75.3	73.9
	読む能力	4	75.5	78.4	76.7
	言語についての知識・理解・技能	21	74.8	76.8	76.5

[国語B：主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		9	60.1	63	61.2
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	75.0	78.0	76.6
	書くこと	2	28.7	32.2	31.3
	読むこと	6	52.7	56.1	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	46.8	50.3	49.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	47.7	51.0	50.3
	話す・聞く能力	3	75.0	78.0	76.6
	書く能力	2	28.7	32.2	31.3
	読む能力	6	52.7	56.1	53.5
	言語についての知識・理解・技能	1	46.8	50.3	49.2

[国語A]及び[国語B]の課題分析と改善の方向性

国語A、国語Bともに区全体の平均正答率は全国平均値を下回っていますが、昨年度と比較してその差は縮まっています。全国平均値との差は国語Aで昨年度 - 2.4 ポイントから今年度 - 1.5 ポイントに、国語Bで昨年度 - 3.3 ポイントから今年度 - 1.1 ポイントに減っています。領域別・観点別では、国語Aの「話すこと・聞くこと」以外の全ての区分で全国平均値を下回っている状況です。

国語Aでは、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」ことに関する設問に課題が見られます。言語に対する知的な認識を深めるだけでなく、言語に対する感覚を豊かなものにしていくことが大切です。多様な場面や状況における学習の積み重ねや、継続的な読書の時間などが必要であり、他教科等の学習や学校教育全体に関連させていくことも必要です。

国語Bでは、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」の設問の平均正答率は10.6%で、全国平均値を2.7ポイント下回っており、目的に応じて説明的な文章を読み、内容を的確に捉えることに課題が見られます。

文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導する必要があります。また、目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導する必要があります。

【中学校3年生】

【数学A：主として知識】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		36	63.7	67	66.1
学習指導要領 の領域	数と式	12	69.6	71.4	71.1
	図形	12	67.1	71.1	69.1
	関数	8	51.5	56.6	55.5
	資料の活用	4	60.9	65.0	63.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	数学的な見方や考え方	0	-	-	-
	数学的な技能	14	68.1	71.5	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	22	61.0	64.6	63.3

【数学B：主として活用】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	44.2	49	46.9
学習指導要領 の領域	数と式	4	49.2	53.2	51.4
	図形	3	44.1	50.2	46.7
	関数	3	50.5	54.0	52.8
	資料の活用	4	34.7	41.1	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-
	数学的な見方や考え方	10	42.6	47.5	45.1
	数学的な技能	4	48.4	53.8	51.3
	数量や図形などについての知識・理解	0	-	-	-

【数学A】及び【数学B】の課題分析と改善の方向性

数学Aでは、区全体の平均正答率が全国平均値を2.4ポイント下回りました。学習指導要領の領域・評価の観点における正答率では、全ての項目で全国平均値を下回っています。設問ごとにみると、「数量の大小関係を不等式に表すこと」、「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形すること」、「座標平面上に点の位置を示すこと」、「一次関数 $y = ax + b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めること」、「与えられた資料から中央値を求めること」の5つの設問で全国平均値を5.0ポイント以上下回るなど、数学的な技能に課題があります。

数学Bでは、区全体の平均正答率が全国平均値を2.7ポイント下回りました。学習指導要領の領域・評価の観点における正答率では、数学Aと同様に全ての項目で全国平均値を下回っています。設問ごとにみると、「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明すること」の設問で全国平均値を5.0ポイント以上下回っています。説明する活動は、小学校の第2学年から中学校の第3学年までの8年間を通して、算数的活動・数学的活動で行われている活動です。数学的活動では、その過程を振り返り、レポートにまとめ発表することなどを通して、その成果を共有する機会を設けることとされています。授業においては、生徒が説明する場面を計画的に設定し、学びを振り返る機会を意図的に設定していくことが重要です。

【中学校3年生】

[理科]

分類・区別集計結果

分類	区分	対象設 問数 (問)	平均正答率(%)			
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		27	62.1	65	66.1	
枠組み	主として「知識」に関する問題	11	63.0	65.0	67.9	
	主として「活用」に関する問題	16	62.0	65.0	64.9	
学習指導要領 の分野等	第1分野	物理的領域	7	70.0	73.7	74.4
		化学的領域	8	60.4	63.7	65.0
	第2分野	生物的領域	6	68.6	71.0	72.5
		地学的領域	7	55.0	58.3	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		1	70.6	75.1	74.0
	科学的な思考・表現		16	61.8	65.4	64.9
	観察・実験の技能		4	61.1	64.5	67.0
	自然事象についての知識・理解		8	63.5	66.3	68.7

[理科]の課題分析と改善の方向性

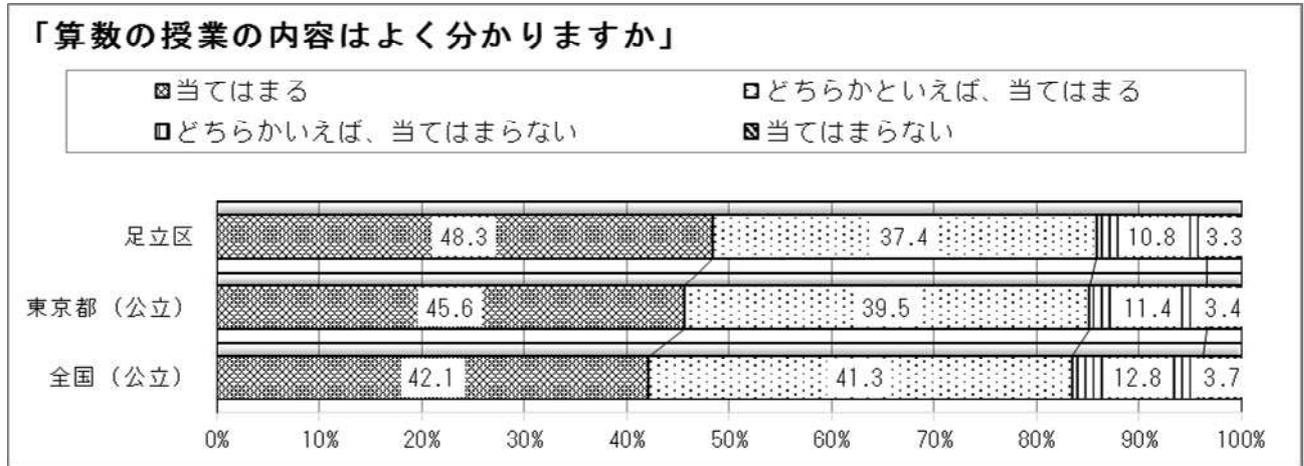
理科は、区全体の平均正答率が全国平均値を4.0ポイント下回りました。

すべての領域及び評価の観点において、平均正答率が全国平均値を下回っています。また、全27問のうち、平均正答率が全国平均値を上回ったものは1問しかなく、すべての分野で基本的な知識・理解の定着が十分ではありません。さらに、記述式の問題については無解答率が高く、28%を超える問題もありました。事象を見て自分の考えをもち表現する力に課題があります。結果から自分の考えをもつためには、観察や実験の結果を分析して解釈し、表現する能力を育てることが必要です。そのためには、足立スタンダードの考え方に基づいた授業を実践し、授業において、まとめ・振り返りをしっかり行い、学んだことを記述させることが不可欠です。目的意識をもって観察・実験を行うとともに、結果を分析して解釈する学習場面を設定し、それをしっかりと記述させることで、自分の考えをまとめる力を高めていくようにすること。また、結果を表にまとめて規則性を見いだすことなどの観察・実験に関わる基本的な技能についても確実に身に付けさせていくことが必要です。

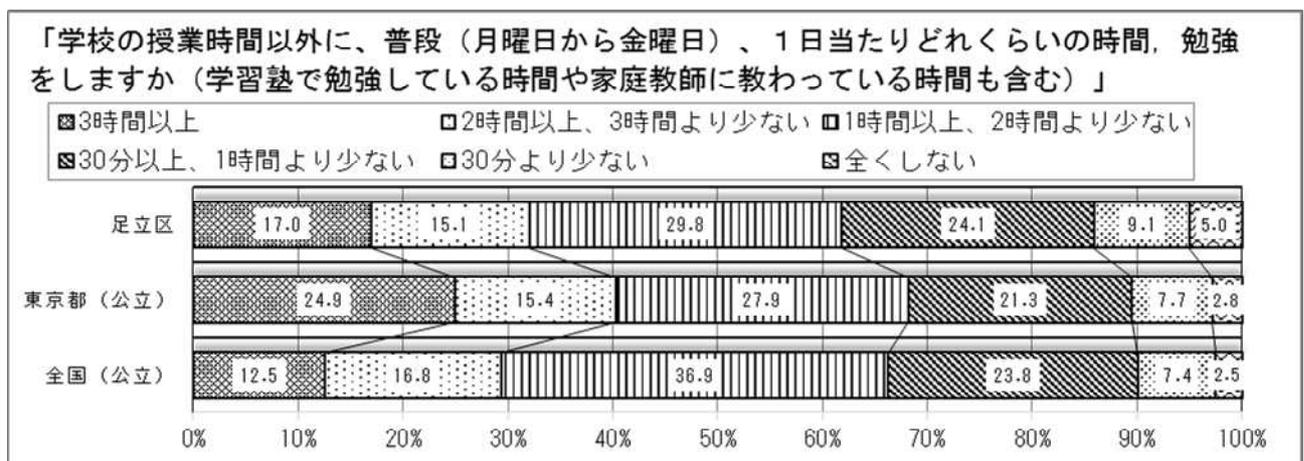
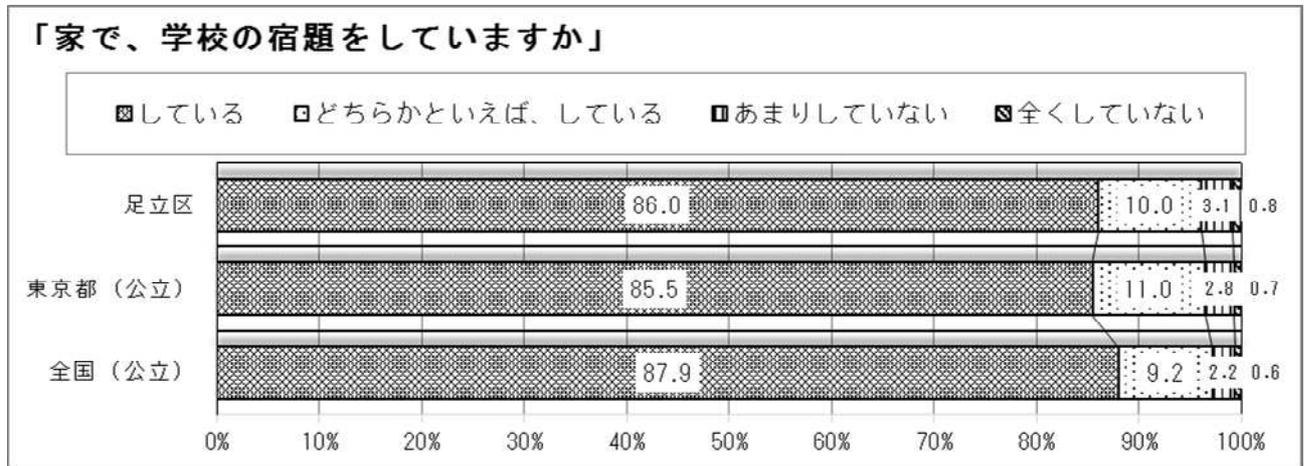
6 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」結果の概要

【小学校6年生】

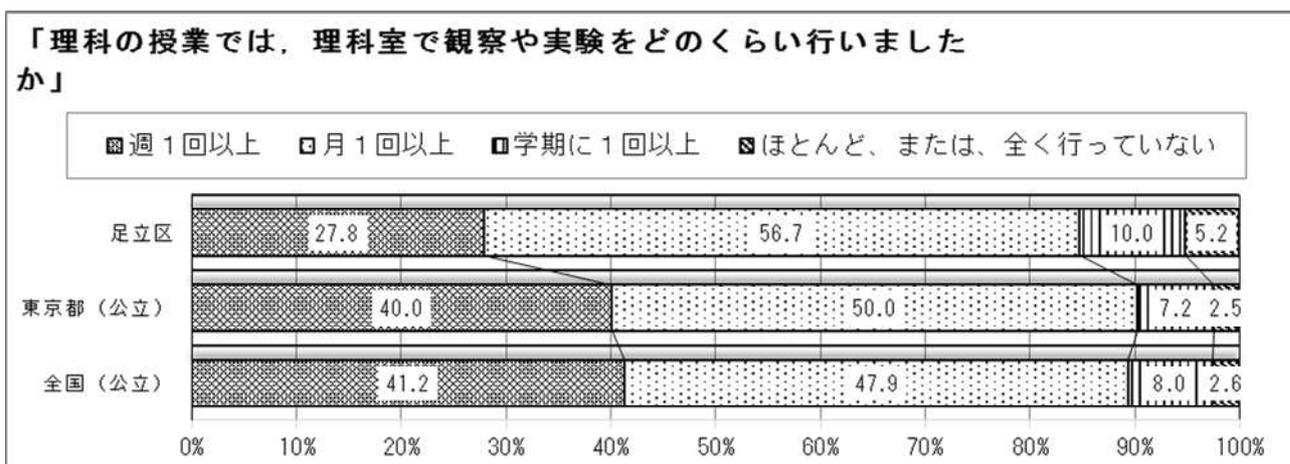
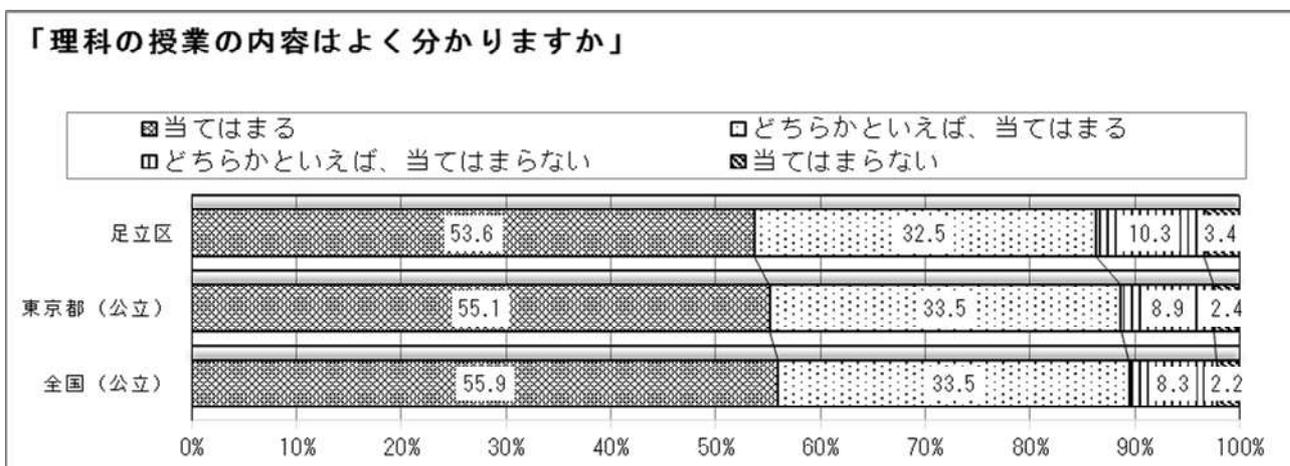
「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は85.7％で、昨年度と同様に東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。



「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に「している」と回答した児童の割合は、86.0％であり、東京都回答割合や全国回答割合とほぼ同程度です。一方で、「普段（月曜日～金曜日）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が1時間未満（「30分以上、1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は38.2％で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

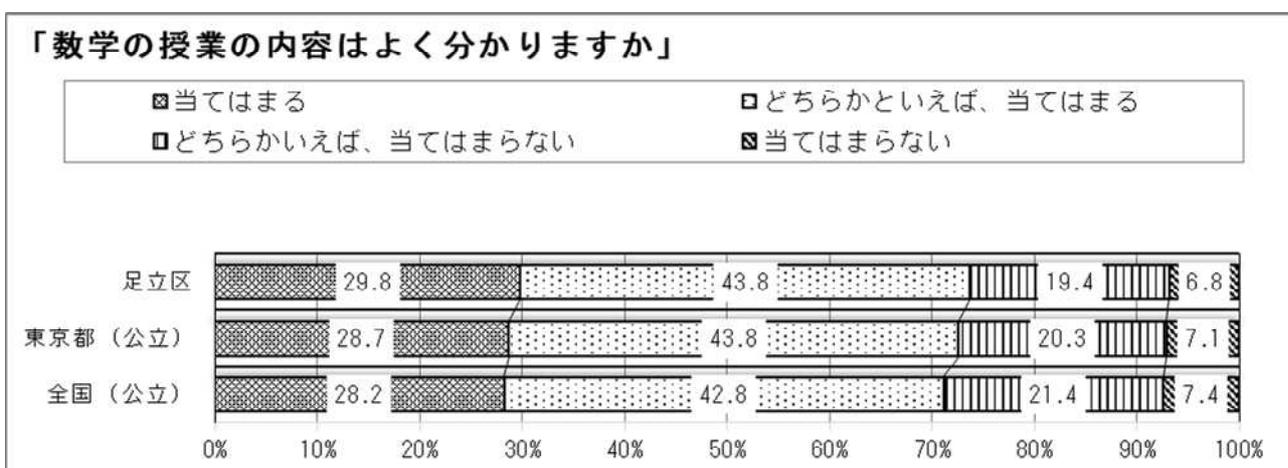


「理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は86.1%で、算数における数値（85.7%）と同程度であるものの、東京都回答割合や全国回答割合を下回っています。また、「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」という質問では、「週1回以上」と答えた割合は27.8%であり、東京都回答割合や全国回答割合を下回っています。

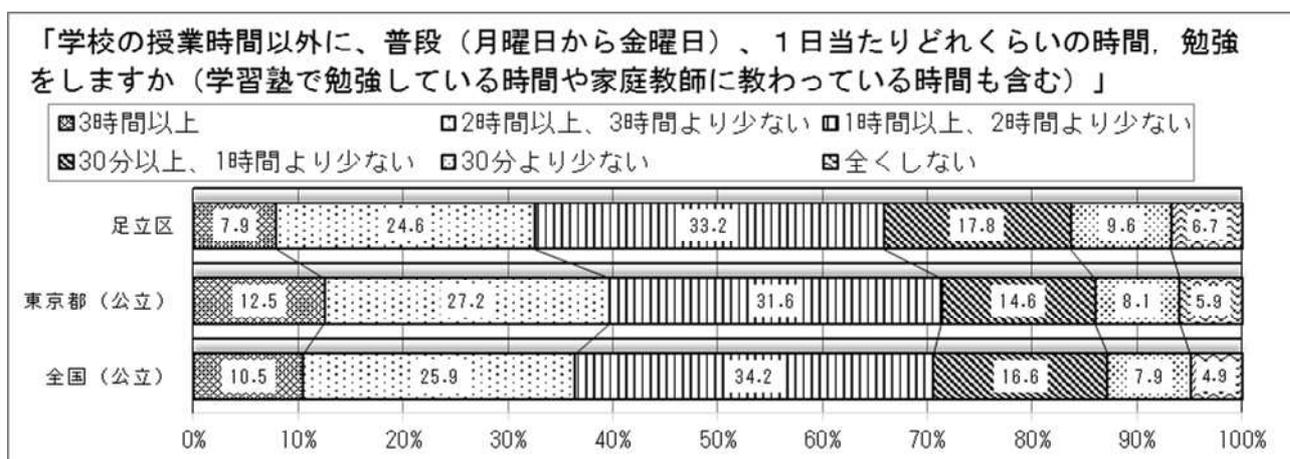
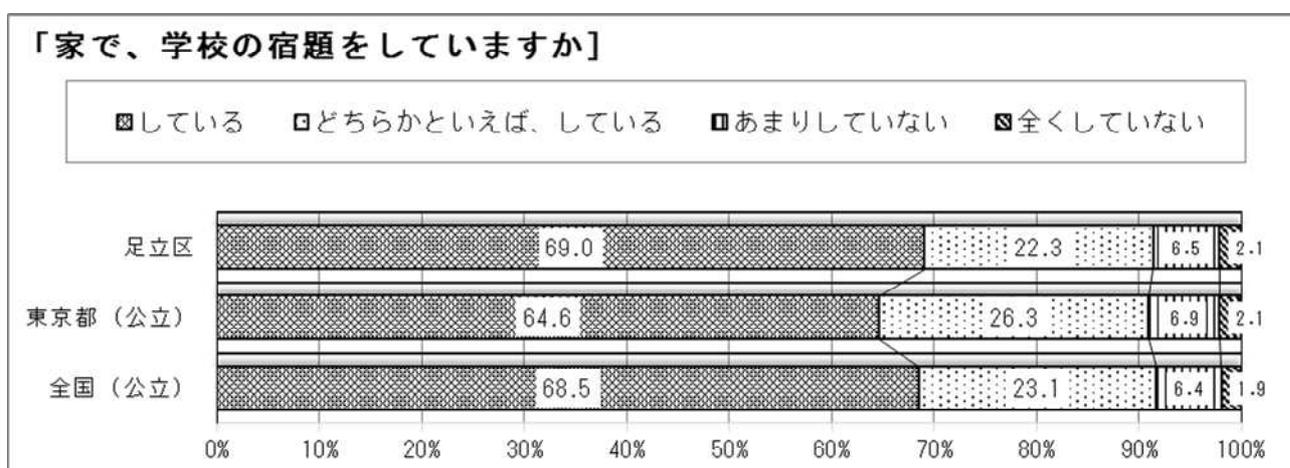


【中学校3年生】

「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は73.6%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。



「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に「している」と回答した生徒の割合は、69.0%であり、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。一方で、「普段（月曜日～金曜日）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が1時間未満（「30分以上、1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は34.1%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。



「理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は66.4%で、東京都回答割合と同程度であり、全国回答割合を下回っています。また、「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」という質問では、「週1回以上」と答えた割合は29.4%であり、東京都回答割合や全国回答割合を下回っています。

